

医療機関の皆様へ

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の発生について

- 令和8年9月5日、県内で初めて重症熱性血小板減少症候群(SFTS)患者の発生が確認されました。
- 全国的に、マダニが媒介する感染症患者が増加しており、特に SFTS については、患者の血液、体液に直接接触することによる医療従事者の感染例が確認されていることから、別添の診療の手引きを御参照の上、診療等御対応いただきますよう、お願いいたします。

【県内及び全国の SFTS の発生状況】

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
宮 城 県	—	—	—	—	1
全 国	118	134	122	191	138(※)

※第36週時点

※日本紅斑熱についても、県外の感染とみられる患者が確認されました。(宮城県感染症発生動向調査第 37 週より)

<重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について>

【臨床経過】

- 潜伏期間は 6～14 日間。発熱、倦怠感、頭痛などの症状で発症することが多い。刺咬部の所属リンパ節(腋窩、鼠径部など)が腫大することもある。続いて、嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状が認められることが多い。
- マダニ刺咬は痂痂を形成しないことも多く、刺咬痕が認められるのは患者の約半数程度である。
- 血液検査所見では、白血球減少、血小板減少、トランスアミナーゼ高値が認められることが多い。
- 重要な暴露歴は①マダニ刺咬、②SFTS 発症伴侶動物との接触、③SFTS 患者との接触である。

【感染対策】

- 血液、体液暴露による感染のリスクがあるため、感染防止策を適切に行いながら、患者の診療にあたることが重要である。

<医療機関へのお願い>

【診断・届出】

- 病原体検査は、地方衛生研究所において行政検査として実施いたします。最寄りの保健所・支所へご相談ください。
- 全数把握対象疾患(4 類感染症)のため、診断した場合は、直ちに最寄りの保健所・支所へ発生届をご提出ください。

【参考】ダニ媒介感染症(厚生労働省ホームページ)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

【参考】マダニ対策、今できること(国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト)

<https://id-info.jihis.go.jp/infectious-diseases/tick-borne-diseases/tick-prevention/index.html>

【参考】ダニ等が媒介する感染症に注意しましょう(宮城県ホームページ)

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/situkan/danibaikai.html>